

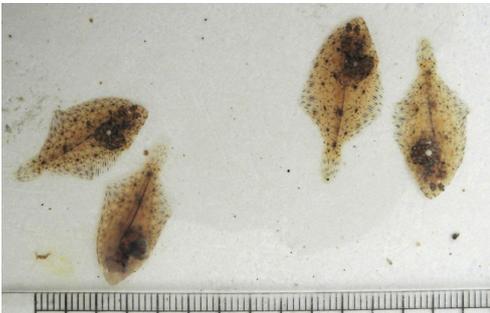
## 大きさのそろったイシガレイ

### ■河口，水門付近で採集したイシガレイ

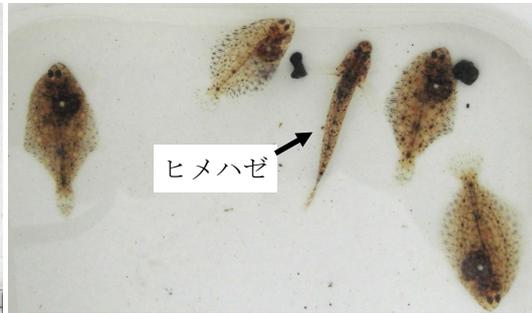
今回の調査では河口，水門付近でイシガレイを採集することができた (Fig.1~4)。大きさはTable.1の通りである。今回の採集した個体は全長がそろっており，同時期に接岸した個体群ではないかと思われる。

	2.0cm	2.5cm	3.0cm	平均(cm)
河口(匹)	1	2	1	2.5
水門付近(匹)	0	4	0	2.5

(Table.1 イシガレイの全長と採集数)



(Fig.1 水門付近で採集したイシガレイ)



(Fig.2 河口で採集したイシガレイ)



(Fig.3 水門付近で採集)



(Fig.4 河口で採集)

### ■テンジクガレイの近似種

これまでの調査で初めて，テンジクガレイの近似種と思われる個体を採集した (Fig.5 6)。初めて目にする魚で，生命の星・地球博物館の和田英敏氏に画像をお送りし，次のような御教示をいただいた。

「画像からでは判断不可能。強いて言えばテンジクガレイ近似種“*Pseudorhombus cf. arsius*”。写真からは確認出来ない特徴を，無眼側の胸鰭軟条が分枝しない，有眼側後頭部に側線分枝がある，鰓耙は櫛状と仮定した場合に，口裂・色彩・鰭条数の特徴はテンジクガレイに最も近い。写真からは背鰭軟条数が79，臀鰭軟条数が61だが，この値はテンジクガレイより大きい。日本産種に一致するものがない。2023年の日本魚類学会年会では，テンジクガレイに複数の隠蔽種が存在することが発表されており，そのうちの一つである可能性は高い。」

採集した生物は観察・画像撮影後放流しており，今回の個体も画像のみで手元には残っていない。貴重な個体だったかもしれず，大変残念である。今後，見慣れない個体は標本にするなどして手元に残すよう心がけたい。ご教示頂いた和田英敏氏には，厚く感謝の意を表します。



(Fig.5 テンジクガレイ近似種 有眼側)



(Fig.6 テンジクガレイ近似種 無眼側) (佐藤 賢治)